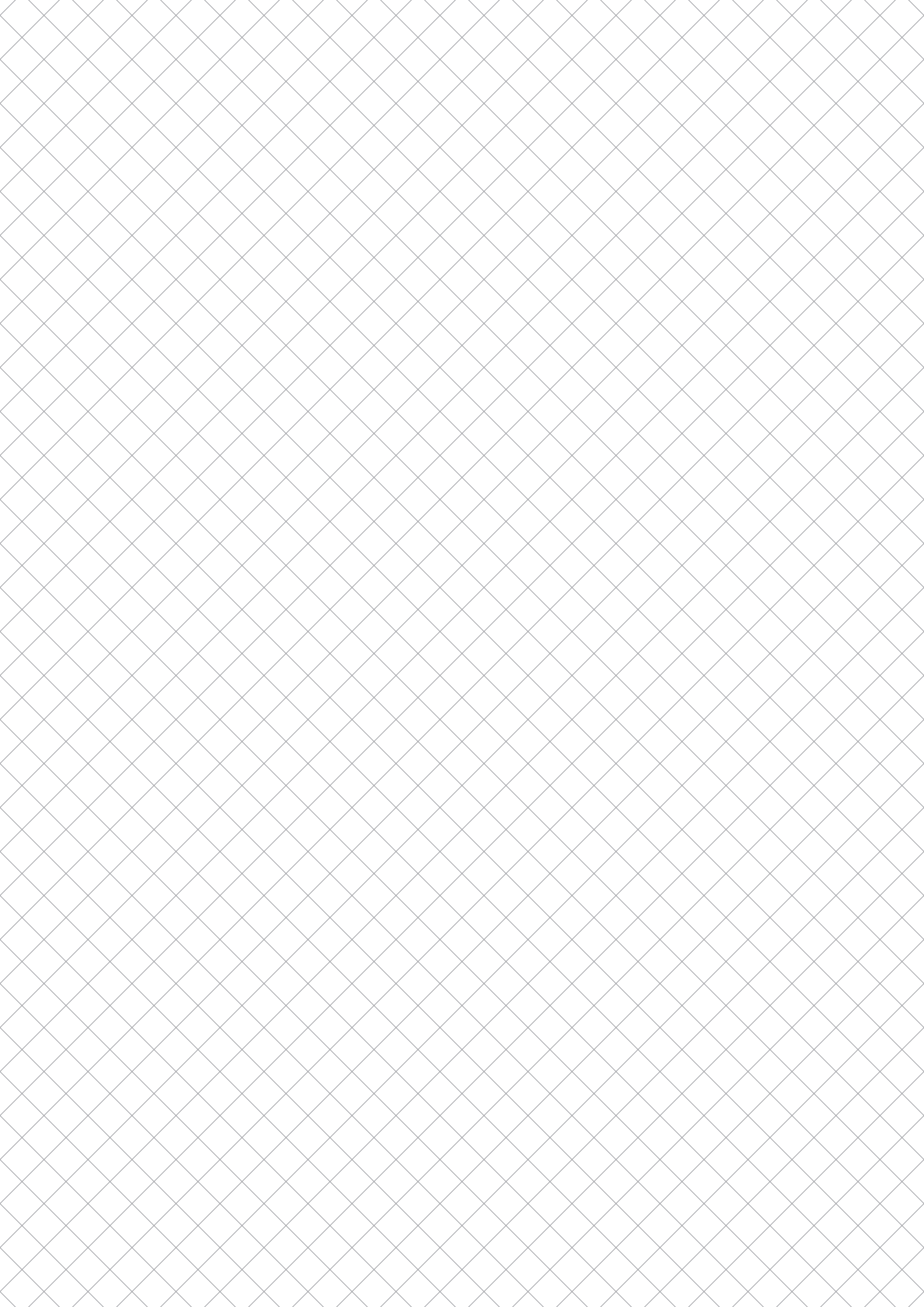


Co-Creation+

| 2023.4–2024.3





はじめに

これからの社会において、芸術は何の役に立てるのか？ 未来社会に必要とされる芸術大学とは？ 振り返れば、このような問いかけから成安造形大学 未来社会デザイン共創機構は生み出されました。私たちは、芸術研究と社会を結ぶことを目的とした特色ある研究機関です。本機構には「附属近江学研究所」、「キャンパスが美術館」そして2025年4月に新設される「デジタルクリエイションオープンラボ」が含まれていますが、この事例集では直轄するプロジェクト等の研究・連携活動に焦点を当て、2023年度の活動をコンパクトに紹介します。

今日、芸術は世界共通の社会制度であり、平和的なインフラとして定着しています。芸術はそれぞれの歴史や文化の再確認を促すとともに、新しい美意識や価値観をカタチにして具体的かつ鮮やかに提示することができます。また、そこでは個性や多様性が最大限に尊重されます。多くの良き作品は、個人の感覚の自由と解放性から生まれるからです。このように芸術は素晴らしい機能を持つ今日的で重要な分野なのです。

しかし、社会は芸術という分野を理解し、十分使いこなしているでしょうか？ その点において本機構の担う役割は小さくありません。芸術分野の専門性を活かして、誠意と熱意を持って未来社会の構想（デザイン）に参画すること。能動的に川上から課題を共有し、新しい価値を創造すること。つまり、より良き社会の実現に向けて主体的に考え、行動し、提案するクリエイター像を顕在化することが私たちの役割なのです。そして、このことが本学が目指す実践的な芸術教育の要であり、その意味において共創プロジェクトや地域貢献・プロジェクト科目／授業が極めて重要であることは言うまでもありません。

本機構は2021年4月に設立され、約4年が経過しました。社会からの期待も日増しに大きくなっており、確かな手応えを実感しています。またそれに伴ってプロジェクトのクオリティも高まっています。独自のユニークな学生支援事業「SEIANドリームプロジェクト（学生特別研究助成金）」や「seianチャレンジ（学生が取り組む地域活動支援制度）」も好評です。しかし、いまだ着手できていないことも多々あります。今日的な状況を踏まえて、皆様のご協力を得ながら研究領域を深化・拡張させ、さらに成長していきたいと考えています。今後ともご理解・ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

成安造形大学 未来社会デザイン共創機構 機構長
岡田修二

芸術研究と社会を結ぶ、研究機関 「未来社会デザイン共創機構」

成安造形大学 未来社会デザイン共創機構は、学園建学の精神「成安・誠と熱・実践教育」および大学基本理念（教育理念）「芸術による社会への貢献」を、今日的条件下で、より力強く実践・展開することを目的として、2021年4月に設立されました。社会との共創により、芸術研究を深化・拡張させ、新たな価値の創造とより良い未来社会の実現を目指します。

設置理念

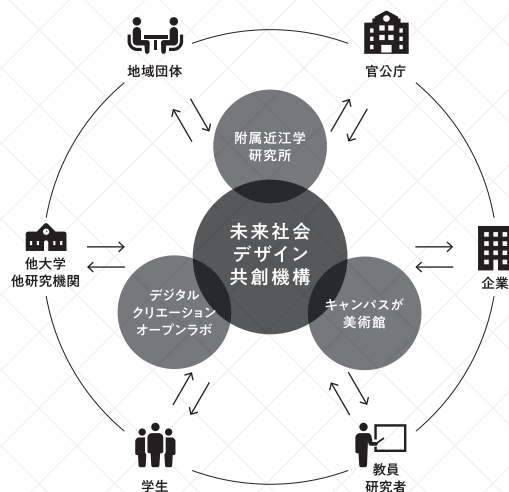
芸術研究と社会を結ぶ、産官学民連携の場を作ります。
主体的な姿勢で社会と共に創造的サイクルを生み出します。
芸術分野がどのように社会へ貢献できるかを、誠意と熱意を持って議論します。

芸術分野と様々な社会テーマの交点を捉え、特色ある今日的芸術研究を推進します。
横断的視点を重視し、新領域や融合領域の創出を推進します。
社会課題の共有により組織的連携を推進し、基礎研究段階からの共創を目指します。
相談案件や研究プロジェクトの舵取りを行い、研究・連携支援の一元的窓口となります。
研究の成果を積極的に社会へ発信することにより、新たな共創を構築します。

未来社会のあり方を考え、人間環境の改善に資する様々な研究の創出を目指します。
こころの豊かさや安らぎの獲得に資する様々な研究の創出を目指します。
優れた芸術の価値を顕在化させ、未来社会のデザインに資する様々な研究の創出を目指します。

学生や教員の研究・制作活動を実践・支援することで学術研究と社会を結び、
社会と共創関係を構築するハブとして機能します。

- POINT 1** 各附属機関の活動および大学全体の研究活動を支える土台。
- POINT 2** 研究活動の支援を通して学生および教員・研究者と社会を結ぶ。
- POINT 3** 学内外からの研究活動に関する相談窓口としての機能。



2025年度各附属機関に関する情報はここから

キャンパスが美術館 ウェブサイト
<https://artcenter.seian.ac.jp>



附属近江学研究所 ウェブサイト
<https://omigaku.org>



デジタルクリエイションオープンラボ (大学ウェブサイト)
<https://www.seian.ac.jp/attached/digilab/>



未来社会デザイン共創機構では、芸術分野における真摯な教育と研究を通して
広く社会に貢献することを目指し、産官学および地域との連携事業や
研究助成事業に積極的に取り組んでいます。
本冊子では、2023年度に実施した研究助成事業や産官学および
地域との連携事業等の活動事例を、下記の分類に沿ってご紹介します。

[事業分類]

- 研究助成事業
- 共創プロジェクト(受託研究・共同研究・受託事業)
- 地域貢献・プロジェクト科目／授業

● SEIANドリームプロジェクト(学生特別研究助成金)	4
● seianチャレンジ(学生が取り組む地域活動支援制度)	7
● 龍谷大学×成安造形大学 びわこ文化公園活性化チャレンジワークショップ	10
● 株式会社たねや×成安造形大学 「近江八景」をテーマにしたお菓子の共同開発プロジェクト	12
● 湖西線アートプロジェクト	14
● ムダモルフォーゼプロジェクト	16
● UHA味覚糖 ご当地PREMIUM パッケージデザイン	17
● 共創プロジェクト(受託研究・共同研究・受託事業) 紹介	18
● 地域貢献・プロジェクト科目／授業紹介	20
事業分類概要	22
2023年度事業一覧	23

*連携先の名称・教職員の職位・参加学生の学年は2023年度当時の情報です。



成果発表展の様子 | 撮影:守屋友樹

SEIANドリームプロジェクト | 学生特別研究助成金

「SEIANドリームプロジェクト(学生特別研究助成金)」は、研究活動の活性化を目指して実施している研究助成事業です。本学の学生・研究生から、既存の枠にとらわれない独創性豊かな研究や制作テーマを募集し、選ばれたテーマに対して、総額100万円の助成金を提供。さらに専門的なアドバイスの提供や外部団体および企業とのマッチングをサポートしています。

導入して3年目の2023年度は、これまでの応募内容の傾向を踏まえ、「作品制作型」と「プロジェクト型」の助成カテゴリーを新設しました。個人またはグループから合計20件の応募を受け付け、審査の結果、作品制作型3件とプロジェクト型3件の、計6件のテーマを採択・支援しました。

助成カテゴリーを2つに分け、特に作品制作型にはポートフォリオの提出を義務付けたことで、学生の能力や特性をより正確に評価できる体制を整えました。すべてのテーマは、学外での制作活動や展示発表につながり、助成金を活用して実社会での芸術活動を展開しました。さらに、卒業制作に取り組む4年生だけでなく、2-3年生の学生の採択により、多様な成果が得られ、活動の幅を広げる機会となりました。

担当:
未来社会デザイン共創機構

期間:
2023年4月-2024年4月

スケジュール

2023年	
4月	情報公開・募集開始
5月	
6月	募集締め切り
7月	審査・結果発表
8月	支援期間開始
9月	
10月	
11月	
12月	
2024年	
1月	
2月	支援期間終了
3月	報告書・パネル提出
4月	成果発表展開催



募集チラシ | デザイン:塩谷啓悟

1. [作品制作型] | 「版画的な思考」により私たちの認識に新しい視点を生み出す

有村聡美 | 美術領域4年生



版画技法に基づく「版画的な思考」という新たな解釈から版画を考察し、私たちの認識に新しい視点を生み出すことを目指した作品制作プロジェクトです。作品制作では、目に映る現実のものと脳裏に浮かべる想像の両方を指す「イメージ」を一貫して取り扱い、原稿と原版、そして支持体に定着した作品という版画制作の過程をイメージの移動と考えました。人が認識するイメージの不確かさと制作方法を照らし合わせ、版画技法を思考法として解釈し、独自の方法論を構築しています。鑑賞者の導線を考えることも作品制作の一部としてとらえ、卒業制作展では作品の中に入り込めるほどの大型の木枠模型を使い、鑑賞体験とともに頭の中でイメージが複層するように構成した作品を展示しました。この作品で奨励賞を受賞しました。

2. [作品制作型] | 服飾作品の魅力を最大限に届ける手法の探究

びしょうぶ 美菖蒲 | 大西涼々 | 情報デザイン領域4年生、片山小巻 | 情報デザイン領域4年生、武田果織 | 情報デザイン領域4年生
壺 悠花 | 情報デザイン領域4年生、名古ゆきみ | 情報デザイン領域4年生、森 ころろ | 空間デザイン領域4年生



学生の服飾づくりの姿勢を取材・編集し、紙媒体で発信してきたサークル「美菖蒲」による作品制作プロジェクトです。ファッションショーで舞台上立つ作品とその制作過程、作者の思いを同時に伝えることができればより作品の魅力を感じてもらえるのではないかという思いから、作品の背景をショーと同時に伝える手法の探究に取り組みました。自らが作品の制作とショーの演出を行い、本学卒業制作展 関連イベントのファッションショー「SEIAN COLLECTION 2024」にて発表。サークル活動を象徴する紙を素材にドレスを制作し、これまで取材した学生クリエイターたちの思いを込めた映像を空間やドレスに投影するという手法で、作品とその背景の同時伝達を試みました。

3. [作品制作型] | 私の作家性とは何なのか

宮下 樹 | 空間デザイン領域2年生



自身の作家性を見つめ直すための作品制作プロジェクトです。1年生から一貫して「リズム」というテーマでコスチューム作品を制作・発表し続ける中で、自身が思い描く評価を得ることができなかった経験から、客観的に見た自身の作家性とは何なのかという疑問が生まれました。自身の作品の世界観や表現をもっと多くの人に見てもらい、評価をいただくことで作家性を見つめ直すことができるのではないかと考え、京都市内のギャラリーで個展を開催しました。6日間の会期を通して158名が訪れ、作品の感想をはじめ、テーマや素材に関するアドバイスなど、今後の作品制作の指針となる客観的な意見を得ることができました。

4. [プロジェクト型] | てんてこのんきのすすめ—農的暮らしの学びから来るべき生活のあり方へ—

佐々木良緒 | 地域実践領域4年生



農家で生まれ育った自身が大学進学を機に感じた疑問から、暮らしのあり方について研究するプロジェクトです。太陽や自然の恵みを中心とする「農的暮らし」を自身の解釈により「てんてこのんき」と表現。これからの社会に対して生き方の選択肢を提示し、自身の私生活の実践から考察される気づき、失敗、工夫などから、将来にわたって機能を失わずに続けていくことができる持続可能な暮らしのあり方を考えました。自然の素材や恵みを利用してお茶を飲むワークショップ「野良点」の実践や日常生活におけるてんてこのんきの瞬間の考察を通して、生き方の指標となる《てんてこのんきのすすめ》を制作しました。卒業制作展では優秀賞を受賞しました。

5. [プロジェクト型] | まちか堂プロジェクト—リンクワーカーとしてのまちの居場所研究—

平良珠朱 | 地域実践領域4年生



大津市瀬田で活動するNPO団体と協力しながら、小中学校の近くで私設図書室「まちか堂」を運営するプロジェクトです。子どもたちの社会的孤立・孤独問題に着目し、社会的処方という事例を参考にしながら、自身が人と地域資源をつなげるリンクワーカーとしてまちか堂を運営しました。子どもが抱える孤独感や漠然とした辛さを少しでも減らせるような居場所になることを目指し、空間や交流ツールなどの環境整備に取り組みました。実際にまちか堂をよく利用する子どもからの相談を受け、ケアにつながる事例も生まれました。卒業制作展では奨励賞を受賞。今後はNPO団体の一員として活動を継続し、運営体制のさらなる強化を目指します。

6. [プロジェクト型] | リノベーションの施工とオリジナル土壁の研究

田中芳明 | 空間デザイン領域3年生



合理性を重視するサービス化した近年の住宅建築に問題提起するべく、住宅建築における施主との共創の実現に取り組んだプロジェクトです。実際に住宅リノベーションの施工を請け負う中で、使用する素材や理想的な建築のあり方を模索しました。近年のサービスのあり方とは違い、住み手が自らの住まいづくりに携わることを目指し、あらゆる建築行為を施主と共有。壁づくりでは、近隣で採取できる自然由来の素材だけで土壁を仕上げることを目標に素材研究に取り組みました。施主家族と一緒に体全体を使って壁を作り上げることで住まいを作ることを自分ごとにするという体験を提供できました。



支援プロジェクトのワークショップの様子

seianチャレンジ | 学生が取り組む地域活動支援制度

本学の基本理念（教育理念）である「芸術による社会への貢献」を実現するため、学生個人および団体による自主的・主体的な地域活動を支援する「seianチャレンジ（学生が取り組む地域活動支援制度）」を実施しています。申請された地域活動1件ごとに、最大5万円の助成金と専門的なアドバイスを提供し、学生による地域社会への貢献を後押ししています。2023年度には、7件の活動が採択され、様々な社会的課題に取り組むプロジェクトが実施されました。

本制度は2年目を迎え、より多くの学生に認知され、応募受付開始からわずか2ヶ月で助成額上限に達するなど、活発な利用が見られました。SEIANドリームプロジェクトで不採択となった学生が内容を見直し、本制度を活用して新たに挑戦した事例や、継続的な地域活動に新しい視点を取り入れるプロジェクトもありました。さらに、本助成を受けたプロジェクトがデザイン学会で優秀賞を受賞するなど、成果が広がっています。

担当：
未来社会デザイン共創機構

期間：
2023年7月～2024年4月

スケジュール

2023年	
4月	
5月	
6月	
7月	情報公開・受付開始
8月	助成額上限に達したため受付終了
9月	
10月	
11月	
12月	
2024年	
1月	
2月	支援期間終了
3月	報告書提出
4月	成果発表展開催

1. 「たからもの」がもたらす コミュニケーションツールの価値研究 池原花奏 | 総合領域4年生



「たからもの」を他者とつながるコミュニケーションツールとして提案するプロジェクトです。たからものは、自身のルーツを振り返り、他者の思いや大切にしている価値観を知るツールになると考え、世代間を超えた交流を図るべく活動しました。子どもを対象とした「たからばこ」づくりのワークショップ、見知らぬ誰かのたからものを記したチケットを本学のコミュニティスペース「結」に展示し間接的な交流を図る展示会など複数の企画を実施しました。

2. 保護ぬいカフェ Chou chou (シュシュ) ～ぬいぐるみと里親が巡り合うプロジェクト～ 大倉未来 | 総合領域4年生



家庭から役目を終えたぬいぐるみを募り、新しい里親との出会いを生み出すためのプロジェクトです。大量生産・大量消費で失われつつあるぬいぐるみの個性に焦点を当て、大量生産される商品から1つの命へと、世間のぬいぐるみに対する認識のアップデートを目指しています。大学祭や地域のイベントへの出店、カフェが併設されたコミュニティスペース「結」での触れ合いイベントを実施し、里親との新しいつながりを数多く創出しました。里親には、ぬいぐるみとの暮らしがより楽しくなる情報を盛り込んだ「里親手帳」を進呈しました。

3. “たどる”を“たのしむ”エコツーリズム [“たどる”を“たのしむ”エコツーリズム実行委員会]

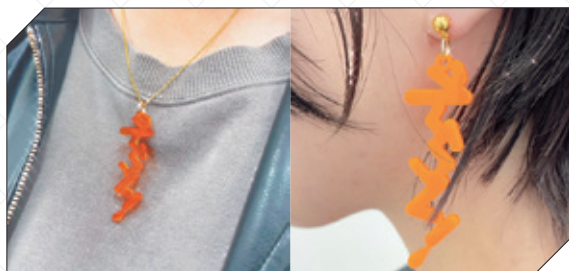
佐々木良緒 | 地域実践領域4年生
平良珠朱 | 地域実践領域4年生



滋賀県大津市守山地域を対象に実施したエコツーリズム企画です。山と琵琶湖の距離が非常に近いという守山地域の特徴を活かし、山から琵琶湖へと流れる水の道をたどるツアーを「たどる」を“たのしむ”エコツーリズム」と題しました。山・里・湖のつながり、地域で育まれた歴史、文化、環境を知識と肌で同時に感じてもらうことを目指しました。プレ実施には21名の参加者が集い、現地住民の方にも案内人としてご参加いただきました。11月にハンガリーで開催された「第19回世界湖沼会議」において、当日の様子を含めたツアー内容を発表しました。

4. 方言はファッション [えんじょもんプロジェクト]

高澤茉央 | 総合領域3年生、大下愛未 | 総合領域3年生
畠中那菜 | イラストレーション領域3年生



地域によってさまざまな特徴がある方言を再度認識してもらい、愛着を持って老若男女すべての人に使ってもらうことを目指したプロジェクトです。今回は若年層を対象に方言を視覚的に意識してもらうため、文字をモチーフにしたアクセサリを制作。普段の生活の中で身につけてもらうことで方言を意識させ、認識・使用につなげることを狙いとしています。今回は滋賀県の方言を使ったアクセサリを数種類制作し、県内のマルシェに出店しました。滋賀県民はもちろん他府県出身の方からも意見を聞き、方言の認識についてリサーチを深めました。

5. デザイン、プロダクトで行動変容を起こす

[おおきにトビケラさんプロジェクト]

中西若菜 | 総合領域4年生、高澤茉央 | 総合領域3年生

水田有咲 | 総合領域3年生、山崎宥花 | 総合領域3年生



京都府宇治市の宇治川流域付近に生息する「トビケラ」という虫に着目したプロジェクトです。大量発生により不快被害の声が多く上がるものの、実は川を綺麗にしてくれるありがたい存在です。トビケラの役割をプロダクトやデザインを通して発信し、イメージ改善や共生意識をもたらすことを目指して2021年度から活動を継続。今回は今までの活動をより多くの方に発信するため、環境啓発イベント「宇治環境フェスタ」に参加しました。来場者からは、制作したプロダクトを見て「かわいいデザインでトビケラのイメージが変わる」といった声をいただきました。

6. 堅田浜通り*小さな写真館

[PhotoLab:seian]

加藤栄蘭 | 情報デザイン領域3年生、山本 桜 | 総合領域2年生

辻崎智之 | イラストレーション領域2年生

米 葵 | 総合領域1年生、栗田有基 | 情報デザイン領域1年生



学生有志によるアートプロジェクト「堅田*はまさんぽ」の一環として実施したフォトイベント企画です。写真サークルの学生がカメラマンとなり、堅田に住む家族や琵琶湖に遊びに来た人々を屋外に設置したフォトブースで撮影しました。撮影した写真はその場で印刷してプレゼント。家族や友人との日常を写真に残すことで、年月が経っても鮮明に思い出してもらいたいという思いを込めています。まちなかにフотスポットを設けたことで、お散歩に来た地域の方が声をかけてくれるなど、交流のきっかけにもなりました。

7. しがCO₂ネットゼロの取り組みをより多くの人に知ってもらう

[全層循環チーム] 水田有咲 | 総合領域3年生、山崎宥花 | 総合領域3年生

矢野秀星 | 総合領域3年生



ゲームを通して楽しく滋賀県の環境問題について考えてもらうことを目指したプロジェクトです。琵琶湖では、寒くなり湖面近くの水が冷やされ沈むことで、湖底の酸素が一気に回復する「全層循環」という現象が見られます。しかし、近年は地球温暖化により湖水温度が下がり切らないことで循環が起きず、湖底の酸素不足で魚が生きられないという問題を抱えています。そこで、子どもを対象に、温暖化対策に取り組むことで魚を助けられることを体感できるボードゲームを制作。本支援を受けて、ゲームをより効果的に楽しめるようなツールの改善と、11月に横浜で開催された「日本デザイン学会秋季企画大会」にて発表を行いました。大会では、優秀賞を受賞しました。



水田有咲 | 総合領域3年生

ゲームを通して地元の子どものCO₂ネットゼロについて楽しみながら学んでもらうことを目標に、コンテンツのブラッシュアップに取り組みました。大会にてプロポジション発表を行い、子どもが興味を持つデザインが施されている点、地域風土に根ざしている点などを評価いただき、優秀賞を受賞しました。琵琶湖の全層循環を認知していただくことはもちろん、デザインによって主体的で対話的な深い学びを子どもたちに提供できる可能性をアピールしました。



ワークショップの様子

龍谷大学×成安造形大学 びわこ文化公園活性化 チャレンジワークショップ

びわこ文化公園の新たな魅力を発掘し、地域活性化を目指す共創プロジェクトを実施しました。科学、技術、農学、デザインなど異分野の学生が参加し、アイデア創出ワークショップを通して多様な視点を活かした提案を行いました。11月には、学生のアイディアをもとに「フォレストクエスト」と題した実験的なイベントを開催し、クイズラリーや落ち葉アートなど、自然体験を通じた新たな公園利用の可能性を実証しました。

本プロジェクトでは、異分野交流の重要性が浮き彫りとなり、学生たちはフィールドワークやグループ作業を通して、理論を実践に応用する力を養いました。また、公園の活性化に向けた提案とその実行を通して、地域社会への貢献を具体化しました。振り返りミーティングでは、ターゲット層やイベント運営の改善点が議論され、次年度の発展的な展開に向けた道筋が示されました。

本プロジェクトを通して、学生たちはデザイン思考や問題解決力を高めるだけでなく、地域の文化・自然資源を活用した新しい価値創造を実現しました。

担当：
大草真弓 教授
田口真太郎 助教
小野真紀子 特別講師
有澤愛祈 特別講師
行吉未彩来 特別講師
未来社会デザイン共創機構

期間：
2023年5月～2023年12月

連携先：
滋賀県／龍谷大学／
びわこ文化公園ゆうゆうパートナーズ

参加領域：
総合／イラストレーション

参加人数：
2名

参加学生：
高橋碧生
(イラストレーション領域2年生)／
山田理紗
(総合領域1年生)



ワークショップの様子



ワークショップの様子



「フォレストクエスト」の様子



「フォレストクエスト」の様子



「フォレストクエスト」ワークシート



集合写真



高橋碧生 | イラストレーション領域2年生

イベントの発案やデザインの制作、実践など普段の授業ではなかなか得られない貴重な経験ができました。特に、龍谷大学との交流は新鮮で、非常に印象に残っています。植物学を専門とする横田岳人准教授（龍谷大学）による植物に関する解説が非常に興味深く、専門分野を超えて互いの知識やアイデアを共有することの面白さを実感しました。また、デザイン分野で培った知識や考え方を活かして制作に取り組めたことも、成長につながったと感じています。



山田理紗 | 総合領域1年生

公園の魅力を子どもたちに楽しく伝える企画の実現に向けて、両大学の先生・学生や、公園の職員さんと意見交換や準備に取り組みました。私は11月のイベント内で使用したスタンプを2種類制作しました。主な対象者である小学生が貰って嬉しくなるようなスタンプにすることを意識しました。実際に喜んでくださっている反応などを見てやりがいを感じるとともに、今後の制作の刺激になりました。

スケジュール

2023年

4月	
5月	
6月	事前視察
7月	参加学生募集
8月	アイデア創出ワークショップ開催
9月	イベント企画・準備
10月	イベント企画・準備

11月	「フォレストクエスト」開催
12月	振り返りミーティング
2024年	
1月	
2月	
3月	



ディスカッションの様子

株式会社たねや×成安造形大学 「近江八景」をテーマにしたお菓子の 共同開発プロジェクト

和菓子舗 たねやとの共創プロジェクトとして、「近江八景」をテーマに新作和菓子を開発しました。本プロジェクトの特徴は、5日間にわたり、学生・教職員とたねやの各セクション（製造、販売、広報など）の主要スタッフが連携し、フィールドワークやアイデア出し、企画提案に取り組んだ点です。

初日のキックオフミーティングで、学生たちは近江八景についての知識を深め、2日目には「ラ コリーナ近江八幡」にて職人から商品の開発過程を学びました。3日目は近江八景の現地を巡るフィールドワークを行い、各地の歴史や伝承、文化に触れました。そして、4日目には

アイデアを磨くためのディスカッションを実施。最終日には、グループごとに、たねやグループの山本昌仁CEOをはじめとする企業の幹部スタッフに向けて新作和菓子の企画提案を行いました。今回の提案をもとに開発を重ねた商品は2025年3月にオープンする新店舗「LAGO 大津」での販売を目指しています。この協働を通して、学生たちは実践的な商品開発の経験を積むとともに、企業との連携によるクリエイティブな課題解決の重要性を学びました。

担当：
加藤賢治 教授
田口真太郎 助教
未来社会デザイン共創機構

期間：
2023年6月～2024年3月

連携先：
株式会社たねや

参加領域：
総合／イラストレーション／美術／
情報デザイン／空間デザイン

参加人数：
14名



近江八景フィールドワークの様子



たねやグループ本社見学の様子



たねやスタッフによるレクチャーの様子



「LAGO 大津」建設予定地での集合写真



小林美空 | 美術領域2年生

製造、販売、広報などさまざまな部署の方のお話を聞く中で、普段は気がつかなかった細部までこだわって作られていたことを知り、お菓子づくりの奥深さを感じました。共同開発ならではの商品の魅力を引き出せるよう、積極的に意見やアイデアを提案することを心がけました。近江八景に興味を持つきっかけになり、「LAGO 大津」とともに愛される商品になることを願っています。



竹谷茉弥 | イラストレーション領域2年生

お菓子里に込められた繊細な想いを体感し、ものづくりに対する強い刺激を受けたことが心に残っています。滋賀県で芸術を学ぶ私にとって、たねやさんの想いを知ることや、近江八景を巡り近江の過去と今を知ることは大変貴重な経験となりました。私は視覚的に八景を楽しめるお菓子を目指して、八景それぞれの意味を柄や色に込めて表現したパッケージを提案しました。共同開発したお菓子がどのような形でお客様に届くのか、非常に楽しみにしています。

スケジュール

2023年

4月

5月

6月 事前視察

7月 参加学生募集

8月

9月 商品開発プログラム実施
(近江八景フィールドワーク、アイデアディスカッション、
プレゼンテーション)

10月

11月

12月

2024年

1月

試作商品の試食、意見交換会実施

2月

3月

試作商品の試食、意見交換会実施



《メタセコイアワークショップアート》

湖西線アートプロジェクト

2021年度から始まったJR西日本との共創による「湖西線アートプロジェクト」は、2022年度から総合領域3年生の演習授業と連携した形で本格的に展開されています。2023年度の第3弾では、近江今津駅を舞台に、JR西日本の社員だけでなく、高島市役所とも連携を強化し、駅周辺地域の特性や市の取り組みについても深く理解する機会が生まれました。今回は、14名の学生が3つのチームに分かれ、フィールドワークやアイデア検討を経て、地域住民や駅利用者と協働し、アート作品を制作しました。特に《メタセコイアワークショップアート》では、高島市役所の協力のもと、地元マラ

ソン大会のイベントスペースでワークショップを開催し、200人以上の参加者が制作に関わりました。さらに、高島市の名産「高島ちぢみ」を使用し、高島市を流れる河川を象徴する青色と自然を象徴する緑色に染めた布を天井から吊るし、風の流れを視覚的に楽しめる作品や、光を活かしたガラスアートも設置し、駅構内を鮮やかに彩りました。本プロジェクトは、地域との強い連携を通して、アートを介して地域活性化に貢献し、人々をつなぐ重要な役割を果たしています。

担当：
宮永真実 講師
未来社会デザイン共創機構

期間：
2023年4月～2024年3月

連携先：
西日本旅客鉄道株式会社（JR西日本）／
湖西線利便性向上プロジェクト
推進協議会

参加領域：
総合

参加人数：
14名



ワークショップの様子



ワークショップの様子



高島ちちみを使用したアート作品



光を活かしたアート作品



矢野秀星 | 総合領域3年生

僕はメタセコイア並木をモチーフにアート制作をするワークショップを提案しました。企画をはじめ、宣伝用ポスターやキャプションデザインなど、アイデアを実現していく過程で多くの貴重な経験を積みました。活動の中でJR西日本の方々とやり取りをする機会が多く、これから社会に出ていく上で役立つ対話力が身についたと感じています。ワークショップで地域の方々と制作した作品が展示された時は達成感でいっぱいになりました。



山崎宥花 | 総合領域3年生

自分たちのアイデアを形にして実際に駅を彩るという体験は、本当に貴重でかけがえのない経験になりました。おひろめ会で多くの人の前で挨拶をしたときに、企業の方や地域の方、偶然ワークショップに訪れた方など、多くの方々の協力があったからこそ完成した作品であることを実感しました。アートを見た人同士で会話が生まれたり、「素敵だ」と感じてもらえるような作品になっていれば幸いです。

スケジュール

2023年

4月	近江今津駅フィールドワーク
5月	アイデア展開
6月	プレゼンテーション
7月	ポスター提案
8月	イベント企画・準備、アート制作
9月	イベント企画・準備、アート制作
10月	

11月	アート制作ワークショップ開催
12月	
2024年	
1月	作品設置
2月	作品おひろめ会
3月	



阪急うめだ本店10階「うめだスーク」展示・販売会の様子

ムダモルフォーゼプロジェクト

「ムダモルフォーゼプロジェクト」は、2022年度よりスタートした、アップサイクルに焦点を当てた取り組みです。アパレル業界が抱える大量生産・大量消費の問題、特に売れ残り商品の廃棄問題に対処するため、エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社（阪急百貨店やイズミヤSCを運営）との協力を通して、廃棄予定の材料を新たなアート作品へと生まれ変わらせています。2023年度は、本学の地域貢献・プロジェクト科目「アップサイクルリメイク」と連携し、26名の学生が参加しました。学生たちは型落ちや返

品商品、工房で生じた端切れや梱包材などを再利用し、作品を制作しました。これらの作品は、阪急うめだ本店10階「うめだスーク」で2週間にわたり展示・販売され、多くの来場者が訪れました。

本プロジェクトは、学生に実際の制作と販売の経験を提供し、アートを通してアップサイクルの価値を広める重要な役割を果たしています。学生たちは、社会的な問題に取り組みながら自身の作品を通して新しい価値を生み出すプロセスを体験し、クリエイターとしての成長を感じることができました。

阪急うめだ本店10階「うめだスーク」展示・販売会の様子



作品制作中間チェックの様子



担当：
田中秀彦 准教授
大野知英 非常勤講師
未来社会デザイン共創機構

期間：
2023年4月～2024年3月

連携先：
エイチ・ツー・オー
リテイリング株式会社／
株式会社阪急阪神百貨店

助成：
環びわ湖大学・地域コンソーシアム
「大学地域連携課題解決支援事業
2023」

参加領域：
総合／美術／情報デザイン／
空間デザイン／地域実践

参加人数：
26名



「ご当地PREMIUM 幻の果実 アドベリーグミ」

UHA味覚糖 ご当地PREMIUM パッケージデザイン

大阪に本社を置く製菓会社UHA味覚糖株式会社と連携し、「ご当地PREMIUM 幻の果実 アドベリーグミ」のパッケージデザインを制作しました。「ご当地PREMIUM」は、日本各地の果物のおいしさをグミやキャンディを通して届けたいというコンセプトから誕生したUHA味覚糖株式会社のオリジナルブランドです。毎回地域の学生からデザインを募集するなど、産官学連携によって開発されています。今回は、滋賀県高島市の特産品であるアドベリーを使用したグミの発売に伴い、コンペ形式でデザインを募集しました。9名の学生が提案した12案の中から、情報デザイン領域2年生の松本涼花さんのデザインが採用されました。商品名を「幻の果実」とし、宝石に見立てたデザインで、希少価値の高いアドベリーを表現しました。

松本さんは「アドベリーの他にも滋賀県の魅力を伝えられるパッケージにしたいと思い、高島市の伝統工芸品である扇骨と琵琶湖を掛け合わせ、水の和柄にも見えるように扇子を配置しました。また、グミの香り高い上品な味わいと果実の宝石感を表現するために思い切って黒とゴールドの背景色にチャレンジしました。商品が多くの人の手に渡ることを楽しみにしています。」と、デザインのこだわりと喜びを語りました。

担当：
南 琢也 教授
未来社会デザイン共創機構

期間：
2023年4月-2024年3月

連携先：
UHA味覚糖株式会社

参加領域：
総合／イラストレーション／
情報デザイン

参加人数：
9名

松本涼花 (情報デザイン領域2年生)



共創プロジェクト(受託研究・共同研究・受託事業) 紹介

彦根マラリアートプロジェクト



担当: 宇野君平 教授 / 田口真太郎 助教

連携先: 彦根市歴史まちづくり部文化財課 | 期間: 2023年4月-2024年3月

参加領域: 美術 | 参加人数: 2名

彦根城旧外濠を埋め立てたマラリア対策(1949-1955年)に着目した現代アート作品《濠と瘡^{ごう おこり}》を使用して、市民、学生、専門家などとともに、対話型鑑賞ワークショップを実施するプロジェクトです。アートを通して社会的価値観に問いを投げかけ、彦根市の未来に向けた新しい価値の創造を目指し活動しました。(環びわ湖大学・地域コンソーシアム「大学地域連携課題解決支援事業 2023」採択事業)

左: 彦根市銀座商店街のGelateria Azzurro 2F カフェスペース(旧 JAZZ喫茶チャップリン)を会場に、滋賀大学陵水新聞会の学生を中心に、本学、滋賀県立大学、立命館大学の学生を交えて対話型鑑賞会を開催

「しがわーくフェスタ2023」ラジオ企画



ラジオ会場の様子(写真中央: 三日月大造滋賀県知事)

担当: 未来社会デザイン共創機構

連携先: 滋賀県中小企業団体中央会 | 期間: 2023年4月-2023年10月

参加領域: 総合/情報デザイン | 参加人数: 3名

滋賀県中小企業青年中央会および滋賀県中小企業団体中央会が主催する、子ども向けのお仕事体験・学習イベント「しがわーくフェスタ2023」に、学生有志のラジオ番組「セイアンデンパ」チームが参加し、業界の魅力を発信するラジオ企画を実施しました。本学の学生がMCを担当し、参加企業の方々にゲストを迎え、お仕事の魅力紹介や未来を担う子どもたちへのメッセージを中心にトークを繰り広げました。特別ゲストとして三日月大造滋賀県知事にもご参加いただきました。

アートで広げる子どもの未来プロジェクト



完成した外壁アートと参加者

担当: 宇野君平 教授 | 連携先: 近江八幡市文化振興課、京都建物辻正株式会社

期間: 2023年4月-2023年12月 | 参加領域: 美術/情報デザイン

参加人数: 3名

2022年度から近江八幡市と連携して取り組んでいる「アートで広げる子どもの未来プロジェクト」事業として、近江八幡市内の音楽ホール「文芸セナリヨ」の外壁改修工事にあわせて外壁アート《未来》を制作しました。2023年度の活動は、前年度に実施した外壁アートワークショップの成果作品をもとに、外壁アートの監修とその原画や型紙を制作しました。工事完了後にはワークショップに参加した子どもたちやそのご家族を招待して「広報写真撮影会～関係者のつどい～」を開催して完成を祝いました。

未来社会デザイン共創機構では、官公庁、一般企業、各種団体から研究費（事業費）を受け入れ、研究・開発を行っています。地域と連携して、本学の基本理念（教育理念）「芸術による社会への貢献」の実現に取り組む活動の一部をご紹介します。

日吉大社 絵馬制作



大絵馬おひろめの様子

担当：高田 学 准教授／未来社会デザイン共創機構
連絡先：日吉大社 | 期間：2023年7月～2023年12月
参加領域：美術 | 参加人数：1名

2016年度から本学美術領域日本画コースの学生が原画制作を担当している日吉大社の干支大絵馬。8年目となる2023年度は美術領域3年生の上田佳史さんが「辰」の原画を制作しました。新年に同じ絵柄の絵馬が販売（授与）されることから「合格祈願や健康祈願、厄除けといった参拝者の願いを、この雄大な龍が天まで届けてくれるように」と願いを込めて描かれました。大絵馬は新年にあわせて日吉大社境内入り口に設置され、多くの参拝客の皆様楽しんでいただきました。

「TOYOTA SOCIAL FES!!」 撮影サポート



参加学生集合写真

担当：未来社会デザイン共創機構 | 連携先：株式会社京都新聞ホールディングス
期間：2023年9月～2023年10月 | 参加領域：総合／情報デザイン
参加人数：5名

株式会社京都新聞ホールディングスからの依頼を受け、トヨタ自動車が主催する「TOYOTA SOCIAL FES!!」の撮影に参加しました。本イベントは毎年全国各地で行われる地域の自然環境を守るための参加型アクションプログラムです。「次世代の環境のために」というテーマのもと滋賀県で開催されたプログラムの記録撮影に5名の学生が参加しました。滋賀県立琵琶湖博物館の敷地内の散策や、化石の葉と生きている葉を見比べるクイズラリーの様子を撮影。写真は、活動レポートを兼ねた広告として京都新聞の紙面に掲載されました。

おおつ光ルくん イラスト制作



石山寺とおおつ光ルくん

担当：田中真一郎 教授／未来社会デザイン共創機構
連携先：大津市産業観光部観光振興課 | 期間：2023年9月～2023年11月
参加領域：イラストレーション | 参加人数：1名

大津市観光振興課より依頼を受け、大津市観光キャラクター「おおつ光ルくん」のイラストを制作しました。大津市では、紫式部が主人公の2024年大河ドラマ「光る君へ」の放送に際し、観光振興を通じた地域経済の活性化を目指して、市内の魅力発信に取り組まれています。その一環として、21世紀版光源氏であるおおつ光ルくんの平安時代をイメージした5種のイラストをイラストレーション領域2年生の野崎 葵さんが制作しました。リサーチを重ね、平安時代に流行した石山詣をイメージした木舟や牛車、紫式部が源氏物語の着想を得たとされる石山寺など、ゆかりのあるモチーフを描きました。

地域貢献・プロジェクト科目／授業紹介

アップサイクルリメイク



コンテスト受賞写真

担当: 田中秀彦 准教授／大野知英 非常勤講師
連携先: エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社／株式会社阪急阪神百貨店 | 参加人数: 12名

滋賀や京都を中心とした関西圏の企業が生産する布素材、繊維、リボン、工業資材、アパレル商品の製造工程や歴史を学び、地域との関連性を知り、それらを再利用してリメイク作品を作ります。さらに地域に還元する方法を提案し、展示および販売を目指します。(環びわ湖大学・地域コンソーシアム「大学地域連携課題解決支援事業 2023」採択事業)

大津市歴史博物館 おもちゃのワークショップ



大津市歴史博物館でのワークショップの様子

担当: 宇野君平 教授
連携先: 大津市歴史博物館
参加人数: 25名

大津市歴史博物館と連携して、大津市内の小学生を対象におもちゃづくりのワークショップを開催します。郷土の歴史や文化を学び、ものづくりの魅力を体験し、子どもたちの創造力を育むことを目指します。この活動を通して、学生たちは社会教育の現場を実践的に学びます。

近江里山フィールドワーク



上仰木地区で田植えをする学生の様子

担当: 今森光彦 客員教授／加藤賢治 教授／大原 歩 非常勤講師／佐藤悦子 特別講師
連携先: 仰木自然文化庭園構想 八王寺組
参加人数: 31名

里山環境の整備や田植え、稲刈り、脱穀作業など、棚田保全活動を通して、里山における人と自然の関わりについて学びます。フィールドワークを通して、里山での暮らしを深く理解し、未来における自然との関わりについて考察します。最終回には、客員教授である写真家の今森光彦先生が運営する仰木の農園を訪問します。

大津祭曳山連盟公式キャラクター 「ちま吉」プロジェクト



大津祭当日の「ちま吉センター」でちま吉グッズを販売

担当: 田中真一郎 教授／加藤賢治 教授
連携先: 大津祭ちま吉協議会
参加人数: 20名

大津祭曳山連盟の公式キャラクター「ちま吉」を中心に、子どもたちや地域住民向けの活動を展開します。毎年「大津祭を知ってもらう・来てもらう・好きになってもらう」をテーマに、イベント企画やオリジナルグッズの開発など、多岐にわたる活動を実施しています。

大津市科学館 プラネタリウムアニメーション制作



完成作品「北斗と南斗の仙人」の1カット

担当: 高橋登美子 准教授／植村泰之 非常勤講師
連携先: 大津市科学博物館
参加人数: 13名

大津市科学館のプラネタリウムで上映する星座の物語をテーマにしたアニメーションを制作します。学生は絵コンテの作成から作画、背景美術の制作、撮影・編集、アフレコ収録といった一連のアニメーション制作の流れを学びます。

ソーシャルデザインプロジェクト



プレゼンテーションの様子

担当: 大草真弓 教授／石川 亮 准教授
連携先: 滋賀県商工観光労働部観光振興局
ビワイチ推進室／滋賀県危機管理センター
参加人数: 15名

社会課題を身近なものとしてとらえ、デザインをどのように役立てるのかを探求します。滋賀県観光振興局のビワイチ推進室との連携では女性や子どもにも親しめるビワイチポスターを制作。滋賀県危機管理センターとの連携では大学生にとっての身近な防災ツールのデザインを企画・提案しました。

未来社会デザイン共創機構では、プロジェクト科目等の実践型授業の運営サポートを行っています。
官公庁や民間企業、各種団体、地域からの依頼を授業課題として取り入れ、成果をあげる取り組みの一部をご紹介します。

地域とアート (堅田アートプロジェクト)



会場にて堅田の音を集めた「カタカタカタカプセル」を作る子ども

担当:馬場晋作 准教授/石川 亮 准教授
連携先:堅田浜通り商店街/
堅田学区自治連合会/永楽自治会/
認定特定非営利活動法人 しがNPOセンター
参加人数:16名

堅田浜通り商店街を舞台とした「堅田*はまさんぼ」というアートプロジェクトの企画や運営を行います。地域の調査や学生と地域住民との交流企画を立案しプロジェクトの運営を経験することによって、地域との継続的な関係やアートを通じた協働の意義について実践的に学びます。

びわ湖大津館 光のアートプロジェクト



2023年度イルミネーション作品

担当:三宅正浩 准教授
連携先:京阪・琵琶湖汽船グループ(琵琶湖汽船株式会社)
参加人数:28名

びわ湖大津館のイングリッシュガーデンに、冬期限定で展示する光のアート作品(イルミネーション)を制作します。作品を多くの方々に楽しんでいただけるよう、リサーチからコンセプトづくり、プレゼンテーション、実際の制作、そして展示運営まで一連のプロセスに取り組みます。

日映志賀 ブランディング企画提案

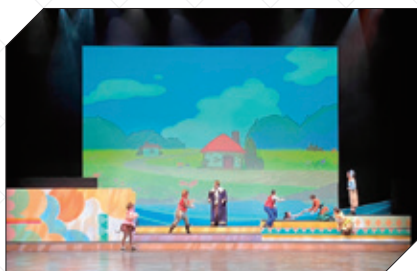


企業担当者を交えた合評の様子

担当:大草真弓 教授
連携先:株式会社日映志賀
参加人数:16名

ゴミ回収や、仮設トイレや仮囲いのレンタル、生ゴミ堆肥化事業に取り組む株式会社日映志賀と連携し、同社が製造する堆肥「めぐりっこ」のPR媒体の制作に取り組みます。地域のリサイクル事業を担う企業の課題理解とその訴求媒体のデザインを通して循環型社会構築のための情報デザインの役割を学びます。

びわ湖ホール オリジナル上演プロジェクト



2023年度成果発表公演の様子

担当:田中秀彦 准教授/大野知英 非常勤講師
連携先:公益財団法人びわ湖芸術文化財団
参加人数:39名

滋賀県立びわ湖ホールで上演されるオリジナルミュージカルの制作を体験します。劇場や舞台裏の見学、そしてプロの舞台美術のスタッフからの講習を通して、実際の舞台制作の現場を学びます。学生は衣装制作、舞台美術、小道具などの各部門に分かれ、実際の制作活動に携わります。

びワイチプラスとコミュニティ



フィールドワークの様子

担当:加藤賢治 教授/石川 亮 准教授
連携先:オーパルオブテックス株式会社/
滋賀県商工観光労働部観光振興局びワイチ推進室
参加人数:20名

地域企業や行政と連携し、自転車で琵琶湖を一周する「びワイチ」を題材に、コロナ禍社会の新たな地域振興のあり方を探求します。学生たちは実際にサイクリングを体験し、そこで得られた気づきをもとに、必要なサービスやコンテンツのアイデアを創出し提案します。

リデザインプロジェクト



素材選びの様子

担当:田辺由子 教授
連携先:株式会社Comodo LABO
参加人数:39名

繊維メーカーや商社から提供された未使用の素材を活用して、障害者支援施設での製造を前提にした雑貨のデザインとサンプル制作に取り組みます。学生たちが制作した作品はリデザインプロジェクトコンテストに出品され、入賞作品の中から商品化されるものが選ばれます。

事業分類概要

研究助成事業

特別研究助成事業

本機構の設立に伴い、本学の研究活動をさらに活性化すべくリニューアルした、学内の「競争的研究資金」です。今日的な社会課題に対する斬新なアイデアやチャレンジ性を有する研究、科学研究費助成事業（科研費）の獲得につながる研究などを奨励します。

科学研究費助成事業

日本学術振興会の科学研究費助成事業（科研費）は、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」（研究者の自由な発想に基づく研究）を格段に発展させることを目的とする「競争的研究資金」です。本機構では、科研費の管理を行い、独創的・先駆的な研究を支援します。

SEIANドリームプロジェクト（学生特別研究助成金）

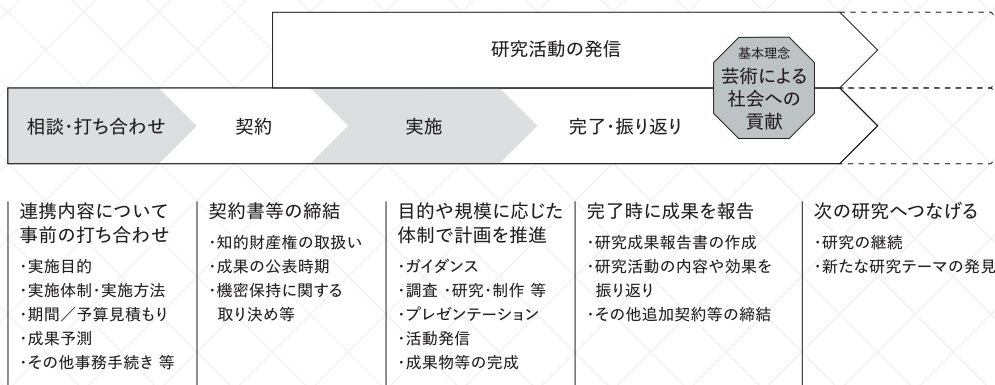
研究活動の活性化を目指し実施する学生特別研究助成金制度です。本学の学生・研究生から枠にとられない独創性豊かな研究・制作テーマを募集し、採択テーマには総額100万円の研究・制作資金の助成支援をはじめ相談や指導、マッチングなどの活動支援を行います。

seianチャレンジ（学生が取り組む地域活動支援制度）

本学の基本理念（教育理念）「芸術による社会への貢献」を具現化する学生の自主的・主体的な活動を支援する制度です。1件あたり最大5万円の助成支援、活動へのアドバイスなどのサポートを行います。

共創プロジェクト 受託研究・ 共同研究・ 受託事業

官公庁や民間企業、各種団体から研究費（事業費）を受け入れ、研究・開発を行います。滋賀県唯一の芸術大学であるリソースを活かして、地域の課題解決や芸術文化の発展に向けた様々な企画を積極的に提案。地域と連携して、本学の基本理念（教育理念）である「芸術による社会への貢献」の実現に取り組みます。



地域貢献・ プロジェクト 科目／授業

本学の教育カリキュラムの一環として、官公庁や民間企業、各種団体、地域からの依頼や共同研究を授業課題に取り入れ単位認定を行う取り組みです。多くの成果物は実際に商品化されるなど、デザインやアートが実社会にどう関わっていくかを実践的に学ぶ機会となっています。本機構では運営管理・活動支援を行います。

2023年度 事業一覧

*連携先の名称・教職員の職位・参加学生の学年は2023年度当時の情報です。

分類		プロジェクト名	担当	期間	主な連携先	参加領域	参加人数
研究助成事業	特別研究助成事業	展覧会「ON PAPER 紙にとどまるもの」を開催することで、観賞教育の実践内容と研究成果を披露する。同時に「メディア」「版画教育」「版画とデザイン」について考察して理解を深める機会にしたい。	長尾浩幸 教授	7月-3月	-	-	-
	科学研究費助成事業	アートによる地域再生の実践的検証―障がい者アートと地域アートの未来像を探る試み	馬場晋作 准教授 石川 亮 准教授	2020年-2023年	仁愛大学 三脇康生 教授	-	-
		ジェンダーインクルーシブなプログラミング教育教材の開発と普及	真下武久 准教授	2021年-2024年	同志社女子大学 有賀妙子 教授	-	-
		モニタリング手帳の活用による対話型糖尿病医療に向けたアクションリサーチ	由井真波 客員教授	2023年-2027年	日本赤十字看護大学 細野知子 准教授	-	-
	SEIANドリームプロジェクト (学生特別研究助成金)	「版画的な思考」により私たちの認識に新しい視点を生み出す／有村聡美(美術領域4年生)	未来社会デザイン共創機構	7月-2024年4月	-	美術	1
		服飾作品の魅力を最大限に届ける手法の探究／美苅蒲 大西涼々(情報デザイン領域4年生) 片山小巻(情報デザイン領域4年生) 武田果織(情報デザイン領域4年生) 壺 悠花(情報デザイン領域4年生) 名古屋きみ(情報デザイン領域4年生) 森 ころ(空間デザイン領域4年生)	未来社会デザイン共創機構	7月-2024年4月	-	情報デザイン、空間デザイン	6
		私の作家性とは何なのか／宮下 樹(空間デザイン領域2年生)	未来社会デザイン共創機構	7月-2024年4月	-	空間デザイン	1
		てんてこのんきのすめー農的暮らしの学びから来るべき生活のあり方へー／佐々木良緒(地域実践領域4年生)	未来社会デザイン共創機構	7月-2024年4月	-	地域実践	1
		まちか堂プロジェクトーリンクワーカーとしてのまちの居場所研究ー／平良珠朱(地域実践領域4年生)	未来社会デザイン共創機構	7月-2024年4月	-	地域実践	1
		リノベーションの施工とオリジナル土壁の研究／田中芳明(空間デザイン領域3年生)	未来社会デザイン共創機構	7月-2024年4月	-	空間デザイン	1
	seianチャレンジ (学生が取り組む地域活動支援制度)	「たからもの」がもたらすコミュニケーションツールの価値研究／池原花奏(総合領域4年生)	未来社会デザイン共創機構	8月-2024年4月	-	総合	1
		保護ぬいカフェ Chou chou(シュシュ)ーぬいぐるみと里親が巡り合うプロジェクトー／大倉未来(総合領域4年生)	未来社会デザイン共創機構	8月-2024年4月	-	総合	1
		“たどる”を“たのしむ”エコツーリズム／“たどる”を“たのしむ”エコツーリズム実行委員会 佐々木良緒(地域実践領域4年生) 平良珠朱(地域実践領域4年生)	未来社会デザイン共創機構	8月-2024年4月	-	地域実践	2
		方言はファッション／えんじよもんプロジェクト 高澤茉央(総合領域3年生) 大下愛未(総合領域3年生) 畠中那葉(イラストレーション領域3年生)	未来社会デザイン共創機構	8月-2024年4月	-	総合、イラストレーション	3
		デザイン、プロダクトで行動変容を起こす／おおきにトビケラさんプロジェクト 中西若菜(総合領域4年生) 高澤茉央(総合領域3年生) 水田有咲(総合領域3年生) 山崎宥花(総合領域3年生)	未来社会デザイン共創機構	8月-2024年4月	-	総合	4
		しがCO ₂ ネットゼロの取り組みをより多くの人に知ってもらう／全層循環チーム 水田有咲(総合領域3年生) 山崎宥花(総合領域3年生) 矢野秀星(総合領域3年生)	未来社会デザイン共創機構	8月-2024年4月	-	総合	3
		堅田浜通り＊小さな写真館／PhotoLab:seian 加藤栄蘭(情報デザイン領域3年生) 山本 桜(総合領域2年生) 辻崎智之(イラストレーション領域2年生) 米 英(総合領域1年生) 栗田有基(情報デザイン領域1年生)	未来社会デザイン共創機構	8月-2024年4月	-	総合、情報デザイン、イラストレーション	5
	共創プロジェクト (受託研究・共同研究・受託事業)	谷本勇写真作品デジタルデータ化プロジェクト	金澤 徹 教授	4月-3月	大津市歴史博物館	-	-
		彦根マリアアートプロジェクト	宇野君平 教授 田口真太郎 助教	4月-3月	彦根市歴史まちづくり部文化財課	美術	2
		ムダモルフォーゼプロジェクト	田中秀彦 准教授 大野知英 非常勤講師 未来社会デザイン共創機構	4月-3月	エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社、 株式会社阪急阪神百貨店	総合、美術、 情報デザイン、 空間デザイン、 地域実践	26
		「しがわーくフェスタ2023」ラジオ企画	未来社会デザイン共創機構	4月-10月	滋賀県中小企業団体中央会	総合、情報デザイン	3
		アートで広げる子どもの未来プロジェクト	宇野君平 教授	4月-12月	近江八幡市文化振興課、 京都建物辻正株式会社	美術、情報デザイン	3

共創プロジェクト (受託研究・共同研究・ 受託事業)	龍谷大学×成安造形大学 びわこ文化公園 活性化チャレンジワークショップ	大草真弓 教授 田口真太郎 助教 小野真紀子 特別講師 有澤愛祈 特別講師 行吉未彩来 特別講師 未来社会デザイン共創機構	5月～12月	滋賀県、龍谷大学、 びわこ文化公園ゆうゆう パートナーズ	総合、 イラストレーション	2
	株式会社たねや×成安造形大学 「近江八景」をテーマにしたお菓子の 共同開発プロジェクト	加藤賢治 教授 田口真太郎 助教 未来社会デザイン共創機構	6月～3月	株式会社たねや	総合、 イラストレーション、 美術、情報デザイン、 空間デザイン	14
	日吉大社 絵馬制作	高田 学 准教授	7月～12月	日吉大社	美術	1
	「TOYOTA SOCIAL FES!!!」撮影サポート	未来社会デザイン共創機構	9月～10月	株式会社京都新聞 ホールディングス	総合、情報デザイン	5
	おおつ光るくん イラスト制作	田中真一郎 教授 未来社会デザイン共創機構	9月～11月	大津市産業観光部 観光振興課	イラストレーション	1
	微生物を題材にしたカードゲーム 実施イベント	未来社会デザイン共創機構	10月～2月	株式会社SCREEN ホールディングス、 滋賀県立琵琶湖博物館	総合、情報デザイン	5
	春の防火安全週間および 女性隊員募集ポスター イラスト制作	未来社会デザイン共創機構	10月～12月	大津市女性防火クラブ 連合会	-	-
地域貢献・プロジェクト科目	UHA味覚糖 ご当地PREMIUM パッケージデザイン	南 琢也 教授 未来社会デザイン共創機構	11月～3月	UHA味覚糖株式会社	総合、 イラストレーション、 情報デザイン	9
	アップサイクルリメイク	田中秀彦 准教授 大野知英 非常勤講師	4月～3月	エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社、 株式会社阪急阪神百貨店	総合、美術、 空間デザイン、 地域実践	12
	近江里山フィールドワーク	今森光彦 客員教授 加藤賢治 教授 大原 歩 非常勤講師 佐藤悦子 特別講師	4月～3月	仰木自然文化庭園構想 八王寺組	総合、 イラストレーション、 美術、情報デザイン	31
	大津市歴史博物館 おもちゃのワークショップ	宇野君平 教授	4月～3月	大津市歴史博物館	総合、 イラストレーション、 美術、情報デザイン	25
	大津祭曳山連盟公式キャラクター「ちま吉」プロ ジェクト	田中真一郎 教授 加藤賢治 教授	4月～3月	大津祭ちま吉協議会	総合、 イラストレーション、 美術、情報デザイン、 地域実践	20
	ソーシャルデザインプロジェクト	大草真弓 教授 石川 亮 准教授	4月～3月	滋賀県商工観光労働部 観光振興局ビワイチ 推進室、 滋賀県危機管理センター	美術、情報デザイン、 地域実践	15
	地域とアート(堅田アートプロジェクト)	馬場晋作 准教授 石川 亮 准教授	4月～3月	堅田浜通り商店街、 堅田学区自治連合会、 永楽自治会、 認定特定非営利活動法人 しがNPOセンター	総合、 イラストレーション、 美術、情報デザイン、 地域実践	16
	ビワイチプラスとコミュニティ	加藤賢治 教授 石川 亮 准教授	4月～3月	オーバルオブテックス 株式会社、 滋賀県商工観光労働部 観光振興局ビワイチ推進室	総合、 イラストレーション、 情報デザイン	20
	びわ湖大津館 光のアートプロジェクト	三宅正浩 准教授	4月～3月	京阪・琵琶湖汽船グループ (琵琶湖汽船株式会社)	総合、 イラストレーション、 美術、情報デザイン、 空間デザイン	28
	びわ湖ホール オリジナル上演プロジェクト	田中秀彦 准教授 大野知英 非常勤講師	4月～3月	公益財団法人 びわ湖芸術文化財団	イラストレーション、 美術、情報デザイン、 空間デザイン、 地域実践	39
	リデザインプロジェクト	田辺由子 教授	4月～3月	株式会社Comodo LABO	イラストレーション、 美術、情報デザイン、 空間デザイン、 地域実践	39
授業	大津市科学館 プラネタリウムアニメーション 制作	高橋登美子 准教授 植村泰之 非常勤講師	4月～9月	大津市科学館	イラストレーション	13
	CO ₂ ネットゼロの推進をテーマにした ワークショップ制作	小野真紀子 非常勤講師	4月～9月	滋賀県総合企画部CO ₂ ネットゼロ推進課、 公益財団法人 淡海環境保全財団	総合	14
	湖西線アートプロジェクト	宮永真実 講師 未来社会デザイン共創機構	4月～3月	西日本旅客鉄道株式会社 (JR西日本)、 湖西線利便性向上 プロジェクト推進協議会	総合	14
その他	日映志賀 ブランディング企画提案	大草真弓 教授	10月～3月	株式会社日映志賀	情報デザイン	16
	祇園祭山鉾装飾品等専門委員会 委員	小善善通 教授	1995年～	-	-	-
	大津市 堅田少年センター 運営協議会 委員	加藤賢治 教授	2010年～	-	-	-
	公益財団法人 滋賀県文化財保護協会 監事	小善善通 教授	2012年～	-	-	-
	滋賀県 文化財保護審議会 委員	小善善通 教授	2012年～	-	-	-
	京都御所障壁画面修理 指導	小善善通 教授	2014年～	-	-	-

その他	京都市 元離宮二条城保存整備委員会 委員	小嵯普通 教授	2014年-	-	-	-
	大津市 湖都文化実行委員会 文芸誌「湖都の文学」編集委員	石川 亮 准教授	2015年-	-	-	-
	草津市 景観審議会 委員	西尾幸子 准教授	2015年-	-	-	-
	滋賀県 文化・経済フォーラム 幹事	加藤賢治 教授	2015年-	-	-	-
	京都市 元離宮二条城二之丸御殿障壁画 模写事業 指導	小嵯普通 教授	2016年-	-	-	-
	比良比叡トレイル協議会 委員	加藤賢治 教授	2016年-	-	-	-
	大津市 湖都文化実行委員会 文芸誌「湖都の文学」編集委員	加藤賢治 教授	2016年-	-	-	-
	(一般社団法人)日本学生相談学会 理事／代議員・編集委員長	山川裕樹 教授	2016年-	-	-	-
	高島市 文化財保護審議会 委員	加藤賢治 教授	2017年-	-	-	-
	湖南市 景観計画アドバイザー	石川 亮 准教授	2018年-	-	-	-
	滋賀県 文化賞等選考懇話会 委員	千速敏男 教授	2018年-	-	-	-
	滋賀県立信楽高等学校 学校評議員	藤井俊治 助教	2019年-	-	-	-
	彦根市 文化財審議会 委員	小嵯普通 教授	2019年-	-	-	-
	文化庁 文化審議会文化財部会専門調査会 委員	小嵯普通 教授	2019年-	-	-	-
	滋賀県立栗東高等学校 学校運営協議会 委員	金澤 徹 教授	2020年-	-	-	-
	大津市 歴史的風致維持向上協議会 委員	加藤賢治 教授	2020年-	-	-	-
	一般社団法人 日本心理臨床学会 学会誌 編集委員	山川裕樹 教授	2020年-	-	-	-
	大津市 湖都文化推進審議会 委員	小嵯普通 教授	2021年-	-	-	-
	金沢城二の丸御殿 復元整備専門委員会 委員	小嵯普通 教授	2021年-	-	-	-
	京都市京セラ美術館 美術学芸アドバイザー	中谷至宏 教授	2021年-	-	-	-
	元離宮二条城事務所 美術学芸アドバイザー	中谷至宏 教授	2021年-	-	-	-
	公益財団法人 大津市国際親善協会 評議員	小嵯普通 教授	2021年-	-	-	-
	公益財団法人 びわ湖芸術文化財団 理事	小嵯普通 教授	2021年-	-	-	-
	国宝延暦寺根本中堂ほか1棟保存修理事業専門 委員会 委員	小嵯普通 教授	2021年-	-	-	-
	第79回 国民スポーツ大会・第24回全国障害者 スポーツ大会 大津市準備委員会 参与	小嵯普通 教授	2021年-	-	-	-
	大津市 中学校部活動地域移行検討懇話会 委員	藤井俊治 助教	2022年-	-	-	-
	滋賀県立北大津高等学校／ 滋賀県立北大津高等養護学校 学校評議員	石川 亮 准教授	2022年-	-	-	-
	日野町 人材育成アドバイザー	田口真太郎 助教	2022年-	-	-	-
	美の糸アートにどばん！ 実行委員会 委員	石川 亮 准教授	2022年-	-	-	-
	草津市 史跡草津宿本陣整備懇話会 委員	小嵯普通 教授	2022年-	-	-	-
	マザーレイクゴールズ学術フォーラム 学術委員	加藤賢治 教授	2022年-	-	-	-
	滋賀県 商工観光労働部試験研究機関研究外部 評価会議 委員	石川泰史 教授	2022年-	-	-	-
	大津市歴史博物館協議会 副会長	宇野君平 教授	2022年-	-	-	-
	滋賀県立美術館協議会 委員	馬場晋作 准教授	2022年-	-	-	-
	株式会社しがぎん経済文化センター KEIBUN文化講座 講師	千速敏男 教授	4月-3月	-	-	-
	大津市 景観審議会 委員／景観アドバイザー	田口真太郎 助教	4月-3月	-	-	-
	滋賀経済同友会 “MLGsと私たち”研究会 アドバイザー	田口真太郎 助教	4月-3月	-	-	-
	滋賀県立信楽高等学校 しがクリエイター12 プロジェクト 委員	藤井俊治 助教	4月-3月	-	-	-
	第4回 PATinKyoto京都版画トリエンナーレ 実行委員長	長尾浩幸 教授	4月-3月	-	-	-
	滋賀県立守山北高等学校 コーディネーター	田口真太郎 助教	6月	-	-	-
	第14回 京都府デッサンコンクール 審査員	永江弘之 教授	7月	-	-	-
	滋賀県 協働で進める子ども・若者まんなか 活動助成事業 審査委員	田口真太郎 助教	8月-9月	-	-	-
	近江八幡市 西の湖オーガニックラゴ 委員	田口真太郎 助教	10月-3月	-	-	-



おわりに

本学は「芸術による社会への貢献」を基本理念（教育理念）としています。このことを標榜する文面の冒頭には「私たち成安造形大学は、芸術分野における真摯な教育と研究を通して広く社会に貢献する。独自の実践的学士課程教育によって、発想力・提案力・技術力に優れた清廉な人材を輩出する。そして、誇るべき永い伝統を全員が胸に抱き、新しき名門を目指す。」と書かれています。

この研究・連携活動事例集を眺めると、本機構が所管するプロジェクトは研究助成事業や共創プロジェクトなど多岐にわたり、滋賀県を中心に、官公庁や民間企業、各種団体、個人等の活動と、本学学生、教員の教育・研究を結ぶ役割の重要性を確認することができます。

その中でも、基本理念のもと長年にわたって開講してきた地域貢献・プロジェクト科目の存在は、大変重要であると認識しています。毎年地域社会やコミュニティの重要性を理解するための基礎科目をはじめ約10種類の授業が開講され、特にプロジェクト科目は年間延べ250名（全学生の約3割）を超える学生が受講しています。

学生たちは、学外の団体と共創し、地域の課題を考え、発見して提案するという実践的な授業を通して、プロジェクトの背景理解、特に現代社会の諸相やコミュニティに関することを学びます。そして学内外の関係者と協働し、課題解決のための可能性を模索し、実践します。その上で、今後のプロジェクトの発展・展開を念頭に、未来に向けての提言・提案の発端を導き出し、自分自身の社会とのつながりを改めて自覚します。この活動を通して、成功と失敗を経験し、実践力、創造力、課題解決力、協働力、主体的行動力をつけていくのです。

本学学生に向けて

感染症の流行、気候変動により多発する自然災害、経済活動の停滞や不安定な国際情勢など、不透明な未来社会をどのように生き抜くかが今問われています。未来の予測やグローバルな社会情勢を知ることでも大事なことです。今一度、自分の足元を見つめ直すことも大切です。未来社会は、地域（地方）の時代とも言われています。自分が地域でどのようにより良く暮らすのか。学内の学びだけでなく、共創プロジェクトやその他の取り組みに積極的に参加して、アートやデザインなど専門領域で培った学びを在学中に学外で実践してみてください。その経験は必ず自身の将来に活かされるはずです。

成安造形大学 未来社会デザイン共創機構 副機構長
加藤賢治

Co-Creation+

成安造形大学 未来社会デザイン共創機構
2023年度 研究・連携活動事例集

編集・発行:

学校法人京都成安学園

成安造形大学 未来社会デザイン共創機構

〒520-0248 滋賀県大津市仰木の里東4-3-1

tel: 077-574-2111 (代表) | 077-574-2118 (直)

fax: 077-574-2120

mail: mirai@seian.ac.jp

成安造形大学ウェブサイト:

<https://www.seian.ac.jp>



未来社会デザイン共創機構Facebook:

<https://www.facebook.com/seianmirai>



未来社会デザイン共創機構X(旧Twitter):

https://x.com/seian_mirai



成安造形大学 紀要:

<https://www.seian.ac.jp/attached/kiyo/>



発行日: 2025年3月31日

アートディレクション／デザイン: 塩谷啓悟

ISSN 2758-5697

